

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0793250010		
法人名	株式会社エコ		
事業所名	グループホームふたば 1階		
所在地	福島県郡山市安積町荒井字茂平6-40		
自己評価作成日	H29年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年2月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成29年12月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

郡山市にある双葉町指定の施設であり、双葉町の地域の方、施設近隣の方達、両方と交流を図っている。平成29年4月に開所したばかりだが、職員の介護福祉士資格保有率が高く、専門性の高い認知症ケアを提供している。利用者様同士は故郷の思い出を語りながら、絆を深め、お互いに助け合う姿が見られている。施設近隣には公園や河川敷があり、リビングから自然の移り変わりを眺めることができる。施設の畑も広く、農作業にも力を入れており、双葉町で行っていた農作業を続けることができ、精神的な安定につながっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1、運営について各委員会等で検討されるなど職員が意見を出しやすくなっており、出された意見は利用者の支援に活かされている。職員が作り上げた理念を共有し利用者の笑顔を目指し日々取り組んでいる。
 2、事業所には、東日本大震災被災地の双葉町や周辺の町の住民が入居しており、故郷から離れ、家族も遠方に避難しているなど馴染みの関係づくりが困難な中、工夫しながら近くに避難している方を見つけ訪ねてきてもらうなど関係づくりに努めている。
 3、障害者を清掃員として雇用し共有空間、居室とも毎日丁寧に清掃が行われている。声掛けやノックをして部屋の清掃に入るなど利用者に溶け込み温かい雰囲気を作っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所時に全職員と協議し、理念を作成している。故郷を懐かしみながら、笑顔で楽しい生活を送ることができるよう、各職員が創意工夫を行っている。	避難した新しい地域で笑顔や楽しみながら安心できる生活を目指し職員が協力しながら支援にあたっている。故郷双葉地方から避難中の方々との交流など利用者の生活を楽しいものになるよう工夫して理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所に双葉町の方が住んでいる団地があり、利用者様の友人も住んでいる為、時々遊びに来て、おしゃべりしている。西長久保地区の方にも、行事に招待して来て頂いている。	職員が地元のクリーン作戦に参加するとともに事業所主催の芋煮会に地域の方を招待し、利用者との交流機会を作っている。故郷の馴染みの方々も日常的に訪ねてきており、避難のハンデが少しでも軽減するよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来る方、運営推進会議に出席される方等、施設に来所する方々に対して、グループホームや認知症ケアに対して理解が深められるよう、説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所からの活動状況を報告している。出席者より双葉郡内で、双葉町以外の方も入所されていることから、その内訳を知りたいという要望があった為、対応している。	地元の双葉町から地域包括支援センター、行政、民生委員が委員となるほか、地区の町内会長、家族代表、利用者代表が委員となり運営状況などについて話し合っている。避難方法や地元とのつながりなどについて意見が出される他、地区の催しも町内会長より情報を得るなど運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告を毎月行っている。消防訓練や行事にも来て頂き、利用者様の状況を伝えている。必要時には、いわき本庁、郡山支所に出向き相談を行っている。	双葉町郡山支所から保健師が来所し利用者の検診結果を伝えている。また、事業所は利用者が抱える課題に対応するため生活保護や成年後見制度の相談をしたり、利用者の状況報告を行うなど支所やいわき市の双葉町本庁と密に連絡を取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束が禁止されていることを職員は周知している。玄関の施錠もせず、利用者様の行動に対して、制止するような言葉も避け、見守りしている。	事業所内研修を行い、職員に身体拘束の弊害について理解を図っている。また、利用者の行動を制限する言葉かけにも注意を払い身体拘束をしないケアに努めている。玄関は施錠せず見守りで対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様に痣ができれば、何が原因なのか、どうすれば良いのかを考える。職員の表情や言動を観察し、利用者様の対応にストレスを感じていないか注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方がいる為、その制度の内容を伝えている。今後増えてくることもある為、各職員が理解できるよう、勉強していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	これまで解約された方はいない。契約時には、不明な点がないよう十分時間をかけ説明している。特に、金銭に関わる部分は請求書を用いながら丁寧に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来られた際には、意見や要望を聞き取ることにしている。受けた内容は職員会議等で検討し、サービスの向上に活かしている。利用者の買い物等の要望は早目に対応している。	来訪時に家族から出された希望や利用者本人の要望を聞き運営に活かしている。口腔ケアや毛染めなどの要望を受け、歯科医や美容師の訪問につなげるなどサービスの向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々職員からの意見や要望を聞き、対応している。必要があれば、代表者へ報告している。施設に必要な物品の購入等、随時本社に要望している。	管理者は日頃から職員の意見を聞くようにしており、出された要望に対応し、必要な備品を購入している。費用が大きくかかる要望や人員体制についても法人本部に要望を出し検討してもらい、ヘルプ職員の派遣など対応を受けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に自己評価及び管理者による職員の評価を行っている。資格や能力に応じた給与体系を設け、労働時間の調整等、職員一人ひとりの状況に応じた勤務体制としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に積極的に参加し、自己研鑽できる機会を設けている。新人職員に対しては、できない部分を見極め、できるように管理者を中心に指導を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他事業所との情報交換を月に1回実施している。また、研修会等に参加することで法人外の事業所と交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話受付や見学時には、本人や家族から現在の状況を伺い、受付の段階から少しでも不安が解消できるよう丁寧に話を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査の際に伺った細かい情報や、家族の心情や立場を把握し、何かあれば相談し合える関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際には、グループホームが適切かどうか、他サービスの必要性がないか、ご家族の意向を確認しながら相談し、今後の支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様一人ひとりの趣味や特技を把握し、生活に意欲を持って頂けるよう、能力に応じ、茶碗洗いや洗濯物畳み等をお願いしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設ができること、できないことを伝え、ご家族の協力が必要な時はお願いしている。支援内容についても、状況に応じてご家族に相談している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用してきた美容室の方に施設に来て頂き、散髪されている方がいる。自宅に帰られる方、お墓参りに行かれる方もいる。	家族の協力を得て自宅訪問や墓参りに出かける利用者もいる。また、郡山市に避難中の地元の美容師の訪問美容を受けるなど馴染みの関係の継続に努めている。地元出身の職員が少なく、地元の情報把握はまだ十分とは言えない。	故郷双葉地方の情報把握に努め、ボランティアの活用など馴染みの関係継続への工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	コミュニケーションが取れないような方には、職員が仲介し、他の方と交流が図れるよう支援している。職員の声掛けがなくとも、利用者同士でお世話をしている場面がある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまで契約の終了はないが、何があれば相談に乗ったり、必要に応じて連絡調整を行うような対応をとるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から一人ひとりの思いを把握し、職員間で共有している。言語障害を持つ方もいるが、簡単な言葉で答えられるような質問を行い、気持ちを伺っている。	管理者が利用者のアセスメントで暮らし方や意向を把握してケース会議で話し合い職員間で思いを共有している。意向の表出が困難な場合は簡単な選択肢を示し選んでもらうなど意向の把握にも工夫が見られる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査や入所時に本人や家族から細かく情報を聞き取っている。入所後も新しい情報を収集した時には職員で情報を共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートを用いて、現在の心身状態を把握している。月1回のカンファレンスでは、一人ひとりの現状を話し合い、対応方法を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的なモニタリングは3か月に1回実施し、本人や家族の意向を聞いている。必要に応じて主治医や看護師の意見を取り入れ、職員で話し合いながらプランを作成している。	モニタリングは部屋担当の職員が行い、ケース検討会議で話し合っている。それに本人や家族の意向も入れてケアプランを策定している。ケアプランの見直しは3か月毎、状況変化時は随時ケース検討会を行い見直している。職員の意見のほか医師など専門家の意見も参考にして現状に即した介護計画づくりを進めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりの様子は個別記録に記入し、変化や気づきがあれば、特記事項欄に記入している。他職員に伝達しなければならない情報は日誌に記入し、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態、家族の意向を確認し、必要に応じて他サービスを受けることができるよう検討している。毛染めを希望される方には、訪問美容で対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の団地に移動販売車が週2回来る為、買い物したい方は、職員と共に出掛けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族と相談し、かかりつけ医を決めている。訪問診療を受けている方が多いが、家族の協力で歯科受診されている方もいる。	本人や家族の希望に応じて、かかりつけ医の継続や訪問診療を取り入れている。受診の際は、直近の利用者の健康状態や日常生活の状況を医師に伝え、家族の協力のもと適切な医療を受けている。また、受診結果については、受診記録に記載し職員間で情報共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回医療連携の看護師が訪問し、健康管理を行っている。職員にも看護師がいる為、医療に関わることを相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には家族や病院関係者と密に連絡を取り合い、情報の交換を行っている。本人や家族が安心して入退院ができるよう対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に看取りの事前確認を書面にて行っている。まだ重度化はしていないが、その場合は再度書面にて確認し、意向に添った対応ができるよう、各関係者と連携がとれるようにしている。	入居契約時に本人とご家族に対し、重度化した場合や終末期におけるケア対応の指針を説明し、事業所で対応可能な内容について理解を得ている。また、看取り介護に関する職員研修については、今後法人主催の研修を受講する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の訓練を定期的実施している。事故発生時には、マニュアルに沿って対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を毎月実施している。初めて実施した消防署立ち合いによる総合訓練の際には、行政や地域の方にも参加して頂けた。	消防署立ち合いのもと、総合防災訓練をはじめ、毎月、火災、地震災害を想定した自主訓練を実施している。また、非常時の災害に備え、飲料水や食料等も備蓄されている。	事業所から河川が近い立地となっているため、水害のリスクを想定した防災訓練を実施してほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導の際には、排泄に触れるような言葉を出さないよう配慮し、日頃から一人ひとりの自尊心を尊重した対応を行っている。	認知症介護実践研修や事業所内の伝達研修を通じて、接遇スキルの向上を図り、利用者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した支援に努めている。個人情報の取扱いについては、鍵付き書庫で保管し管理を徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めて頂く場面、選択して頂く場面をつくるようにし、職員が勝手に判断することがないように、注意している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	はっきりと意思表示ができる方が多い為、何を行いたいか、と意見を聞いている。意見が出なくても、職員の提案に対し、希望を伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族の協力を得て、行きつけの美容院でパーマをかけたり、毛染めをしてくる方がいる。その他の方も定期的に訪問美容で散髪されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食事はチルド食だが、チルドを休みにし、時々利用者と一緒に調理を行うメニューを立てている。食後の後片付けは食器洗いや食器拭き、テーブル拭きと分担でお手伝いされている。	チルド食品の配食サービスを利用し、事業所側で利用者の要望に基づいて献立をアレンジし提供している。事業所内の畑で利用者と一緒に栽培した野菜を食材に使用し、下ごしらえ、食後の後片付けなども利用者と一緒に、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるよう雰囲気づくりも大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を毎食記録し、不足している時は補給している。水分にむせりがある方にはとろみ粉を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの力量に応じ、声掛けや見守り、介助にて歯磨きを行っている。自歯も義歯もなく含漱困難な方には、口腔用のウェットティッシュを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排尿が可能な方には、失禁があってもトイレ介助を行っている。夜間も安全にトイレに行くことができるようセンサーを使用し、対応している。	利用者一人ひとりの排泄状況を確認しながら排泄パターンを把握している。尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレでの自立排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便の状況を把握し、水分を飲んで頂いたたり、体操を行ったりと自然排便を促している。下剤を使用する際は、医師の指示を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日おきに入浴される方もいる為、曜日は決めていない。ゆっくりと入浴して頂きながら、おしゃべりを楽しまれている。	入浴は、利用者の希望と体調に応じて、週2回以上入浴できるよう支援している。また、利用者と一緒に会話を楽しんだり、ゆず湯等で季節を感じてもらおう等、入浴を楽しむことができるよう支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室の温度、湿度、明かりに配慮し、テレビを観ながら入眠されてしまう方には、そつとテレビを消したり、なかなか休めない方には、おしゃべりしながら付き添ったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	診療記録、服薬内容の記録を個別に記入し、薬の内容や副作用について理解している。薬について不明な点があれば、薬剤師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	くす玉作り、編み物、手芸等、趣味を持たれている方がいる為、楽しみを継続できるよう、道具を準備したり、分からない所は職員と一緒にいたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	孫と毎週買い物に出掛ける方、定期的にお墓参りに行かれる方、自宅に外出される方等、ご家族の協力を得て、対応している。	事業所周辺の公園での散歩や移動販売での買い物などの日常的な外出支援をしている。個人の利用者の希望については、家族の協力を得ながら、外食やドライブ等の機会を作っている。事業所行事として全員参加でのドライブや買い物ツアーなどがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を自己管理されている方がいる為、買い物の際には、支払いをお願いしている。また、訪問美容の支払いの際に、直接美容師の方に支払いをされている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されている方がいる為、好きな時にご家族や友人と会話されている。ホームの固定電話でご家族と会話されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔的で、居心地の良い空間作りを行っている。季節の飾り、生花や植物を置き、季節感も感じて頂けるよう工夫している。	共用空間は、日々の清掃や温度・湿度管理を適切に行っている。壁には季節を感じさせる飾り付けを行い、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りが好きな方は、ソファで一人でテレビを観て過ごされている。利用者様同士の相性を考慮し、席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	各居室には、趣味の物や家族の写真を置いたり、自宅から持ち込まれた家具を置いたり、自分らしく過ごすことができるよう配置している。	各々の居室には、記念写真、家具等、馴染みの物を持ち込んでもらい、その人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。また、日々居室の掃除や温度・湿度管理を適切に行い、利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレがある為、自分でトイレに行くことができる方が多い。居室の戸が同じ形状な為、自分の部屋が分かるよう、表札を掛けている。		